

かとうやしき
加藤屋敷遺跡

遺跡番号 平成17年度登録
調査回数 第2次
所在地 南陽市川樋字加藤屋敷
北緯・東経 38度09分24秒・140度19分30秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所調査第二課
調査原因 一般国道13号上山バイパス改築事業
調査面積 1,600㎡
現地調査 平成19年7月17日～9月28日
調査担当者 氏家信行(調査主任)・伊藤純子
調査協力 置賜教育事務所・南陽市教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・奈良・平安時代・中世・近世
遺構 竪穴住居跡・河川跡・溝跡・墓坑・土坑
遺物 縄文土器・石器・須恵器・土師器・墨書土器・木製品
(文化財認定箱数:41箱)



調査の概要

加藤屋敷遺跡は、JR奥羽本線中川駅から南西へ約500mの南陽市北東部の川樋地区に所在している。周りを鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地で、標高は280mを測る。現在は、水田や畑地、果樹園になっている。

今回の調査は、一般国道13号上山バイパス改築事業(中川工区)に伴う緊急発掘調査として行った。

遺跡は、平成17年度に山形県教育委員会が行った試掘調査の結果、平安時代の土器が出土し、柱穴、溝跡が

確認されたことから登録された。平成18年度に第1次調査を実施し、工事中道路を除く4,400㎡について調査を行っている。今回の発掘調査は、第2次調査で、1次調査の結果から、工事中道路部分の遺構が密と推測される1,600㎡について調査を実施した。

調査は、南側をF区、北側をG区として、重機による表土除去・遺構検出・遺構精査・記録という工程で進めた。

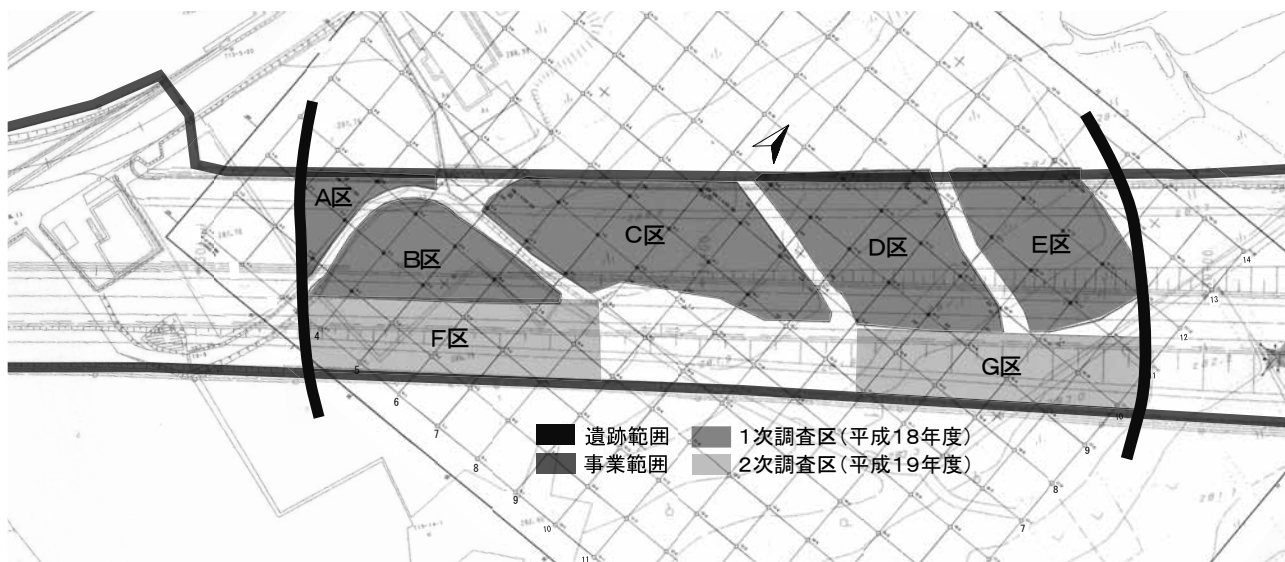
遺構と遺物

調査では、F区から竪穴住居跡、土坑、墓坑、溝跡などが、G区からは土坑、溝跡、河川跡などが検出された。

竪穴住居跡は、直径5.5mを測るほぼ円形で、中央に石組みの炉跡が構築されている。貯蔵穴も2基確認された。覆土や貯蔵穴から出土した縄文土器の特徴から後期末に属すると考えられる。

河川跡は、1次調査区から続くもので、幅2.0m、深さは確認面から1.5mを測り、さらに東側の調査区外まで続く。覆土中から奈良・平安時代の土器や木製品の他、クルミやトチの実なども出土した。

溝跡は、F区で10条、G区で4条確認され、大半が調査区を南北に横断している。G区のSD86・87・91溝跡からは中・近世の陶磁器片が出土している。



調査概要図 (S = 1:1,500)

墓坑は、上部が削平され、深さは 10cm 程で覆土から骨片が出土している。付近から寛永通宝が出土していることから、江戸時代の人骨の可能性も考えられる。

土坑は、直径約 1.0 m 前後を測るものが多く、円形や楕円形に掘られている。土器片が多く出土したものの、土器と共に炭や焼土が多量に出土したものが検出された。

遺物は、縄文土器や石器、奈良・平安時代の須恵器、土師器、木製品、中・近世の陶磁器などが出土した。

縄文時代の遺物は、コブが付いているものや櫛書きの文様が施された縄文土器と小型の尖頭器、石匙、砥石などの石器がある。

奈良・平安時代のものは、須恵器の蓋、坏、壺、甕や土師器の坏、甕、内黒土器、蓋の摘みに「他田」と書かれた墨書土器、そして木製品では柄杓、皿、椀、曲げ物、箸などが河川跡から多数出土した。木製品の皿や曲げ物には黒漆が塗られたものもある。その他、中世の青磁、近世の染付けなども出土している。

まとめ

調査の結果、1次調査区で確認された集落跡に続く縄文時代、奈良・平安時代、中・近世の集落の一部が検出され、遺跡は複数の時代を含む複合遺跡であることが確認できた。

今回調査した区域は遺構が希薄であることから、集落の東端と推測される。1次と2次調査の結果、集落の中心は、古代の竪穴住居跡が6棟検出された第1次調査区を含む北西側になり、その主たる時期は8世紀末から9

世紀後半の奈良・平安時代と考えられる。そして、河川跡から出土した多くの奈良・平安時代の遺物は、大規模な古代の集落跡の存在を窺わせる。

また、縄文時代後期末の竪穴住居跡が見つかったことは、当遺跡の北西に存在する縄文晩期の遺跡とみられている岩谷堂遺跡との関連が考えられる。



遺跡全景 (南西から)



縄文時代の竪穴住居跡（東から）



近世の墓坑（北東から）



古代の土坑（東から）



河川跡遺物出土状況（東から）



河川跡土器出土状況



柄杓出土状況



木製皿出土状況



下駄出土状況